

2 全体会 主催者等あいさつ・来賓祝辞

San-En-Nanshin Summit 2012 in Higashimikawa

主催者あいさつ

三遠南信地域連携ビジョン推進会議会長

浜松市長 鈴木康友



皆様、こんにちは。年に一度、こうして三遠南信の地域の皆様一堂に会しまして行われるサミット「三遠南信サミット2012 in 東三河」、今年も多くの関係者の皆様にご参集をいただきまして誠にありがとうございます。地方自治体関係の皆様、経済界の皆様、そして大学、そして市民団体の皆様、多くの皆様にお越しをいただきました。SENA会長として、心から厚く御礼を申し上げたいと思います。そしてまた、今日は国、県の関係の皆様始め、ご来賓として来ていただいております。特に、私の友人でもございます大村愛知県知事には、大変お忙しい中、お越しをいただきましたこと厚く御礼を申し上げたいと思います。

さて三遠南信地域、この1年間、色々と大きな変化がございました。特にインフラの整備は大きく進展をいたしました。まず何よりも新東名高速道路が静岡県内全線の開通をし、間もなく愛知県内も開通の運びとなるという、東西交通の新しい基幹ができたということでございます。また、懸案の三遠南信自動車道につきましても、三遠道路の鳳来峡IC(インターチェンジ)から、浜松いなさ北ICまでが供用開始となりまして、随分と自動車の交通量も増え、また

交流人口も増えているということで、本当にありがたいことだなと思います。

南信州の飯田市ではリニア中央新幹線の早期開通を目指して、新しい地域づくりが進んでいるということです。また、この東三河では、4月に東三河県庁がいよいよスタートし、新たな地域振興が始まっているということでございます。三遠南信サミットも回を重ねること20回を迎え、これまで交流から連携、そして融合へという歩みを進めてまいりました。平成20年3月に三遠南信地域連携ビジョンが承認され、10月には三遠南信地域連携ビジョン推進会議、通称「SENA」が設立をされまして、具体的な取り組みもスタートをしているところでございます。今年のテーマは、「三遠南信連携の歩みと未来」です。県境連携の先駆けとしての地域創造ということで、これまでの積み重ねというものをいま一度振り返りながら、そしてそれを発信しながら、さらに具体的な取り組みについて深堀をしていきたいと、皆様とご議論をしていきたいと思っております。今日の基調講演では、東京大学の西隆先生にお越しをいただき「新しい国土計画と三遠南信への期待」というテーマで、お話をいただくことになっております。西先生基調講演も踏まえまして、分科会では、より具体的なテーマについて、大いに皆さんで議論いただきたいと思っております。三遠南信地域の連携も、新しい時代に入りつつあるなと思っております。今、日本全体で地域主権、地方分権の流れが加速をしている時に、その中で都市間連携、あるいは広域連携というのが非常に注目をされています。私どもは以前より、一歩も二歩もそれを先んじて取り組みをしてまいりました。そういう意味で、この県境を越えた広域連携について、全国からの注目も集まっ

ていると思います。ぜひ、これを追い風にして、さらなる連携の強化に向けて皆様と力を合わせてまいりたいと思います。本日のサミットが実り多きものとなりますこと、そしてご臨席の皆様の今後のご健勝、ご活躍を心からご祈念を申し上げまして、ごあいさつにかえさせていただきます。本日は、誠に参加ありがとうございました。よろしく申し上げます。

**三遠南信地域連携ビジョン推進会議副会長
豊橋市長 佐原光一**



皆様、こんにちは。東三河 8 市町村を代表して私から歓迎と、そして皆様をお迎えしてのサミットのお祝いのごあいさつをさせていただきますしたいと思います。先ほど、三遠南信サミットのこれまでの歴史、そして三遠南信サミットの目指す方向について、会長の浜松市長さんからお話を賜りましたので、私は開催地の代表として、この東三河地域のことを宣伝させていただこうと思っています。まずは、多くの皆様にこの東三河の地に足をお運びいただきました。心から歓迎申し上げます。本当にありがとうございます。

さて、この東三河地域でございますが、この 1 年間で大きく変わった輸送ルートがございます。それは、国道 23 号名豊道路でございます。この 3 月、豊橋東バイパスの区間が細谷 IC まで、あと 1 区間延ばせば潮見バイパスまでつながるといったところまで

延びました。そして今月 17 日には、これまで豊川のすぐ北側で止まっておりました道路が、東三河環状線の接点まで延びることになります。また、来年の 3 月、もしくは 4 月に、静岡県とつながる潮見バイパスと豊橋東バイパスがドッキングするという記念すべきチャンスがやっけてまいります。あわせて、豊橋港 IC から前芝 IC 間は、2 車線から 4 車線へと、本格的な幹線ルートとしての姿をあらわすこととなります。

また、三河港におきましては、来年早々にもロシアのウラジオストクに向けての定期便が運航を開始します。このルートは、単に三河と、日本とウラジオストク、ロシアの東海岸を結ぶというものではございません。ウラジオストクの先にはシベリア鉄道があり、この鉄道を經由すれば海上ルートでスエズ運河を通るよりもはるかに早く、およそ半分の日数でヨーロッパの市場に物を運ぶことができるようになるわけでございます。私たちは、東三河を玄関とする世界への新しい道が開けるものと大いに期待し、このルートを大事に育てなければならぬと思っています。これに、新東名、三遠南信道がつながれば、この三遠南信地域は世界に向けて、すばらしいポテンシャルを持つ地域になっていくことと思っております。

元来、この地域はものづくりに始まり、優秀な農業生産を誇り、商業の物流ルートを持つといった、さまざまな面で特徴的な地域だと自負しております。今まで、私たちの地域の持つ特徴、実力を遺憾なく発揮するためのさまざまな施策、準備を進めてまいりました。これから、いよいよ三遠南信の融合に向けての動きが具体化してまいります。その一歩手前で、私も東三河が、広域連合に向けての動きもあわせて歩を進めていく。そういう足音が一步一步大きくなっている時でございます。基礎自治体で

ある市町村が自分の実力を遺憾なく発揮できる、そういう場面をしっかりと構築していきたいと思っております。本日、お集まりの市町村、県、国、経済界、そして多くのこの地域の人たちのお力をいただき、私たちの夢の実現に向けて頑張っていきたいと思っております。今日は、それぞれのご来賓の方々にお忙しい中、お集まりいただきました。ご来賓の皆様にも、私どものこの活動をしっかりと見守っていただき、ご支援いただければうれしく思います。最後に、本日ご参会の皆様のご健勝、ご活躍をお祈り申し上げます。そして皆さんでこの三遠南信サミットをお楽しみいただき、実りの多い会にさせていただきたいと思っております。どうぞ皆様方、よろしく願いいたします。本日は、ありがとうございました。

**三遠南信地域連携ビジョン推進会議副会長
豊橋商工会議所会頭 吉川一弘**



皆さん、こんにちは。ただいまご紹介をいただきました豊橋商工会議所の吉川でございます。開催地の商工会議所、商工会を代表いたしましてごあいさつをさせていただきます。本日は三遠南信地域の行政、そして議会並びに商工会議所、商工会の皆様、そして三遠南信地域をフィールドとする住民団体の皆様方には、遠方より、また大変お忙しい中、こうして東三河・豊橋へ足を運んでいただき、誠にありがとうございます。また、平素は三遠南信地域の振興、発

展に格段のご高配をいただいております、ご来賓の皆様におかれましても、ご多用中にもかかわらずご臨席を賜りまして誠にありがとうございます。

我が国の現在の状況でございますが、皆様方もご承知のとおり人口の減少、少子高齢化、経済のグローバル化に伴います国内産業の空洞化など、今までにないスピードで構造変化が起きています。こうした過去に経験したことの無い時代を迎えまして、地域の行政や産業界も、それぞれの新たな役割や地域の将来像を模索する必要に迫られているところでございます。特に東日本大震災以降、防災対策、エネルギー問題はもとより地域づくりそのものについて、あらゆる枠組みを見直さなければなりません。そこで、「広域連携」というキーワードが新たにクローズアップされておりますけれども、地域の諸課題を解決する手法といたしまして、広域的な視点が欠かせないものとなっていることは事実でございます。この三遠南信サミットも、回を重ねること20回ということでございます。これまでも、さまざまなテーマで皆様方に議論をしていただいていたわけですが、三遠南信連携は我が国の県境連携、広域連携の先駆けでございます。今、新たな時代に向かって議論を始める時期にきております。私ども産業界といたしましても、足下の景気対策、中小企業対策を始めとして、三遠南信自動車道や浜松三ヶ日・豊橋道路などの整備促進、そして新産業創出やグローバル化への対応など、広域的な視点に立ち、行政や他の経済団体、大学等とも連携、協力をいたしまして、この三遠南信地域の活性化に取り組んでまいります。最後になりましたが、本日のサミットのご講演や分科会での議論が、ご参会の皆様方にとりまして実り多きものとなりますようにご祈念を申し上げまして、私からのごあいさつと

させていただきます。本日は、ありがとうございました。

愛知県知事 大村秀章 様



皆様、こんにちは。ご紹介いただきました愛知県知事の大村秀章でございます。

本日は、記念すべき第20回の三遠南信サミットが私どもの愛知県、この豊橋市におきまして盛大に開催されますこと、心からお祝いを申し上げます。この三遠南信地域連携ビジョン推進会議の鈴木会長、そして佐原副会長、吉川副会長始め、関係の皆様方に心から敬意と感謝を申し上げる次第でございます。この三遠南信地域は、古くから塩の道と呼ばれるルートがありまして、同じ一つの文化圏、経済圏として発展してきたわけでございます。現在では230万人の人口を擁する地域でもありますし、また、この地域の工業出荷額は全国第7位の埼玉県にも匹敵する10兆円ということもございます。日本の中においても大きな地位を占めているということもございます。

私は1年半、県政を担わせていただいておりますが、選挙の時にもお約束をさせていただいた、この東三河を愛知県の大きな発展の柱としてつくっていく、そしてこの三遠南信の連携を進めていくのだということを申し上げました。その大きな柱として東三河県庁を、この4月からスタートをさせました。1年検討してスタートさせたわけではありますが、担当の永田副知事も豊橋

に常駐をし、東三河振興の大きな柱として三遠南信の連携を進めていこうと、県境を越えた大きな発展のモデルにしていこうということで取り組んでおります。そういう中で、この三遠南信サミットが20回ということでもありますから、本当に心強い限りでございます。今日ご参集の皆様方のお力で、この三遠南信の連携が前に進んでいくように、心からご祈念、ご期待を申し上げます。

先ほどからお話がありました道路網も、どんどん整備されておまして、新東名も三ヶ日まではこの4月に、そして愛知県分も、あと2年で豊田東JCT(ジャンクション)まで整備をされるということもございます。三遠南信自動車道についても、今年3月に三ヶ日から鳳来峡まで整備されまして、さらにその延伸が待たれるわけでございます。大いにこの地域が連携をして、この東海地域はもとより、日本の大きな発展の核となるような、勢いのある地域になっていただくように心からご祈念申し上げます。

さて、私、夏はいつも奥三河に行って参るのでございますが、今年は旧富山村から豊根村から東栄町と、ずっと回ってきました。改めて思いましたのは、この地域は豊川・天竜川の文化圏ということもございます。奥三河にある花祭りも、この文化圏の大きな一つの文化の核でございます。そういう意味で、豊川水系、天竜川水系、そのお互いの交流があってこの地域が成り立っていると、こうした交流をさらに大事にしていきたいなというように思っております。

なお、私、国会議員の時代から、スズキ自動車の鈴木修会長には大変懇意にさせていただいておりますが、鈴木会長が私に会うといつも言うのは「大村君、大村君、浜松遠州を早く三河と一緒にしてくれ」と。それだけ経済的にも人の交流も含め、文化でも非常に連携の強いところでございますので、この三遠南信の連携、合体でもいい

と思いますけれども、大きな太い流れにしていただきたいと心からお願い申し上げます。今日の会議が実りの多いものになりますように心からご祈念申し上げます、ごあいさつといたします。本日は、おめでとうございます。

**国土交通省中部地方整備局局长
梅山和成 様**



皆さん、こんにちは。ただいま、ご紹介いただきました国土交通省中部地方整備局局長の梅山でございます。本日の三遠南信サミット2012 in東三河がご盛会な運び、心からお喜びを申し上げます。また、ご臨席の皆様には、日頃より国土交通省中部地方整備局の取り組むさまざまな施策へのご支援、ご協力を賜っておりますことを、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。三遠南信自動車道につきましては、本年3月4日に鳳来峡ICから、浜松いなさ北ICの約13キロメートルが開通いたしました。また、4月14日には接続する新東名高速道路が御殿場から三ヶ日まで開通し、人、物の交流が活発になるとともに時間短縮による観光の活性化や地域、医療、サービスの向上に貢献しているところです。また、計画が決まっていない最後の区間であります水窪北・佐久間間も、先週、計画段階評価に着手いたしました。中部地方には、高規格幹線道路網にまだまだ多くのミッシングリンクがあり、その解消が災害時の救助、ある

いは復旧の活動や活力ある国土づくりにおいて急務になっております。中でも三遠南信自動車道、新東名高速道路の整備は当圏域の連携強化、発展に大きく寄与するとともに、災害時には中部版「くしの歯作戦」において、広域的緊急輸送路として位置づけられる重要な路線でありますので、今後とも鋭意事業の進捗に努めてまいりたいと考えております。当地域は南海トラフを震源とする巨大地震が切迫していると言われており、その対応も待たなしの状況であります。中部地方整備局におきましては、昨年10月に国、自治体等の関係機関をはじめ、民間、学識経験者の方に幅広く集まっていただき、中部圏戦略会議を設立し、地震防災基本戦略の検討を進めているところです。その結果を踏まえ、関係者が連携、協力して災害に強い地域づくりを急ぐ必要があると考えています。本サミットは今回、20回目の節目となる記念サミットでもあり、当会議で一層の議論を深めていただき、その成果が三遠南信地域のますますの発展につながることを期待しております。最後になりましたが、ご臨席の皆様方のご健勝、ご活躍を心から祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。本日は、どうもおめでとうございます。

**経済産業省中部経済産業局地域経済部長
大橋良輔 様**



ご紹介にあずかりました、中部経済産業局地域経済部長をしております大橋でございます。今日は、三遠南信サミットの節目となります第20回の開催、心よりお喜び申し上げます。平成5年より毎年開催されているサミット、平成20年の三遠南信地域連携ビジョン、こうした確固たる連携指針の策定を経まして現在に至っているというように理解をしております。この指針におきましては、「三遠南信250万流域都市の創造」というテーマを軸に五つの政策の基本方針、その中には当経済産業局も特に関係の深い「持続発展的な産業集積の形成」というものも、一つの柱として据えられているところでございます。地域、ひいては我が国の産業競争力強化には将来の雇用を支える成長分野への総合的、集中的な施策の実施というものが大変重要であります。そうした成長分野を明確にしながら産業集積の形成を図っていく、かつ、県境を越えて連携をしながら進めていくという、このサミットの方向性には大変共感をしている次第でございます。地域の発展を画策していく際には、行政区画単位で物事を考える傾向というのがございます。実際、経済産業局でも三遠南信地域においては中部経済産業局と関東経済産業局の二つにまたがっております。しかしながら、現場レベルでの経済活動の効率、効果といった点では地理的な要素、これが大きなファクターとなりますし、そうであるからこそ地域主権改革等、こうしたものの重要性というものは指摘されているところでございます。実際、この三遠南信地域としての県境を越えた取り組み、これはその地域の実態を踏まえた意義深い取り組みでございまして、我々も局間連携を図りながら応援させていただきたいというように日々考えているところでございます。

その前提で、中部経済産業局の取り組み

を、この場をおかりしてご紹介させていただきますと、現在、中部経済産業局では、中部地域八ヶ岳構造創出戦略というものを掲げてございます。中部地域の特性や強みを生かした成長戦略を進めているというところであります。この八ヶ岳構造と言いますのは、従来の特定産業に依存した産業構造から、多様な成長産業により市場を獲得していくという発想でございまして、多様な産業を八ヶ岳の峰々になぞらえているもので、次世代自動車、航空宇宙、ヘルスケアといったような産業分野が、その主たる峰として位置づけられているところでございます。これらの産業の発展は、我々の管轄する中部地域によってのみ成り立つというものではございません。各分野に関して、三遠南信地域の企業等の間での密接な連携というものが前提として成り立っているところでございます。その連携促進の方向につきましては、三遠南信地域連携ビジョンの中におきましても明らかにされておりますし、それ以外の幅広い取り組みについてもあわせまして今後のさらなる地域の発展につながることを期待しているところでございます。

最後になりますが、本サミットの開催に当たり、多大なご尽力をされております関係者の皆様方に心から敬意を表し、三遠南信地域のますますのご発展並びにご参加の皆様方のますますのご活躍を祈念いたしまして、私からのお祝いの言葉とさせていただきます。今日は、おめでとうございます。